

1 学校として目指す授業

・キャリア教育の視点にたった授業 ・「協働的な学び」「個別最適な学び」による授業 ・地域・外部人材による体験授業 ・生き方を学ぶ総合的な学習の時間の充実

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<p>・国語では、(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が都・全国平均の値を下回っている。また、思考・判断・表現の内容に関しては特に記述式の問題の正答率が平均に比べて低い傾向にある。</p> <p>・算数では、領域B「図形」と領域D「データの活用」が都・全国平均を下回っている。「速さ」を求める問題について、無回答率が平均に比べてとても高い。</p>	<p>・スマホでの動画視聴、ゲームを平日に2時間以上している児童が平均に比べて非常に多い。一方で、学習におけるICT機器活用についても積極的である。</p> <p>・国語、算数の学習が好きな児童は6割以上。また、学習したことが将来役に立つと考えている児童が多い。</p> <p>・国語、算数の記述式問題について全く回答しなかったと回答した児童が平均に比べて多い。</p>

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・「どうやったらうまくいくかを考えて学習を始めるようにしている。」「学習の途中で、分からないところやできないところはどこかを考えている。」「学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。」の項目で、25～30%の児童が、否定的な回答をしている。資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力、人間性等」に関わる部分に課題がある。児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。

・上記を受けて漢字の学習に課題が見られる。「漢字の部首の意味も考えながら覚えている。」「似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。」「テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで特に練習している。」の項目で3割以上の児童が否定的な回答をしている。漢字の読み書きが定着しづらい要因と考えられる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

・国語では、全ての項目において市・全国の平均正答率を上回っている。達成率においても市・全国の平均を上回っているが、「書くこと」の項目については、全国的な達成率自体が低く、本校においても高めていきたい力の一つである。

・算数でも、全ての項目において市・全国の平均正答率を上回っている。達成率においては「データの活用」の項目が全国平均を下回っており、今後意識して重点的に指導していくべき項目である。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

東京ベーシック診断シート（算数）①数と計算の領域では、計算の定着について個人差があり二極化が見られる。②図形の領域では、図形の名称の定着、図形を構成する要素の理解が不十分である。単元の導入時や本時の導入時に既習事項を復習する必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・課題を正しく捉え、学習の見直しをもって取り組むことに課題がある。

・文章で自分の考えを表現することに課題がある。

・一つの問題に対して、複数の角度から調べようとしていたり、粘り強く考えたりすることに課題がある。

・調べて出てきた言葉や事象について正しく理解してから引用することや、わかったことを自分の言葉で発表することには課題がある。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

・どのように取り組めばうまくいきそうか予想させ、見直しをもって学習を進められるようにする。そのために、具体物やICTを活用し、課題を正しく捉えられるようにする。

・理由や根拠を書かせたり、図や表からわかることを記述させたりするなど、文章で表現する機会を設ける。

・個人、グループ、全体など、多様な学習の場を設け、様々な考えに触れることで、学びを調整できるようにする。

・学習の基盤となる基礎的・基本的な内容について習熟を図る。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価	
低学年	・年間通して言語活動を取り入れ、語彙力や表現力を増やす。 ・経験したことを順序に気をつけて書く活動を繰り返し行う。				・具合物の操作を繰り返し行い、思考力を高められるようにする。自分の考えを説明するために、文章で書く活動に取り組む。 ・基礎基本の定着を図るため、反復練習を行う。 ・友達との交流を通して、自分の考えを広げられるようにする。				・身近な人々や自然に関心をもち、触れ合う機会を設定する。近隣の林や商店街など地域の教材を活用する。 ・図書資料やICT機器を活用し、自分で調べ、まとめる学習を行う。		・録音した自分たちの歌声を聴いたり、友達の歌を聞き合ったりする活動を多く取り入れる。 ・伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身につけさせる。		・材料や用具の基礎的な使い方ができるようにする。表したいもののイメージをもち材料や用具を使って工夫して表す活動を取り入れる。				・基本的な動きを体験し、身に付けることができるように、多様な運動遊びを取り入れる。 ・マット、鉄棒、跳び箱などを活用する。					・役割演技や具体物を用いて登場人物の気持ちになり切って考えられるようにする。 ・教材提示の仕方や発問を吟味し、児童が自分事として捉えられるよう工夫する。	
中学年	・漢字や言葉の定着のため、反復練習や言語活動を取り入れる。 ・文章の構成を意識し、叙述に基づいた読み取りができるような学習課題を設定する。		・図書資料やICTを効果的に活用し、自分たちの住んでいる地域がどのような場所なのかを客観的に考えられるようにする。 ・グラフや表の読み方（表題、縦軸、横軸、全体を見て考えること、比較して考えられることなど）を繰り返し指導する。		・問題把握の際は、具体物やICT機器等を活用し、問題場面のイメージ化できるようにする。 ・「図形」領域では、図形を構成する要素やそれらの位置関係を具体物を用いて把握し、性質を見いだせるようにする。 ・自力解決の時間では、自分の考えを式や図と言葉で対比させながら説明できるように指導する。		・身近な事象や体験的な活動を多く取り入れる。 ・実験結果を基に考察やまとめを文章で記述できるように、穴埋めなどから徐々に自分で記述できるような指導を行う。				・音色や響きに気をつけて旋律楽器及び打楽器を演奏する。 ・音楽の仕組みを用いて、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつようにする。		・材料や用具の安全な使い方を指導する。自分の表現したいもののイメージをもたせて創作活動をさせる。				・体づくり運動やサーキットトレーニングを授業の導入で取り入れることで、基本的な動きや技能を身に付けることができるようにする。 ・技能を高めるための場を多く用意し、自分に合った場を選んで個々の課題に取り組めるようにする。				・教材提示の仕方、発問の吟味を工夫し、意見交流等、場を設定し、自分事として捉えることができる。		
高学年	・考え方を深め、広げるために、ICTを活用して、考えたことを表現する機会や場を意図的に設定する。 ・文章の記述を根拠に、自分なりの考えを書く活動を設定する。		・学んだこと、自分の生活がどのように関わりあっているかを考えさせる活動を意図的に設定する。 ・個人、グループ、全体など、多様な学習の場を設け、学びを主体的に調整できるようにする。 ・自分の考えに根拠をもたせるために表やグラフなどから得られるデータを活用させる。		・見通しの時間を意図的に確保し、問題を焦点化してから自力解決ができるようにする。 ・「データの活用」領域では、複数のデータから問題を解決するために適切なものを自分で選択・判断し、自分の考えを根拠を示しながら表現できるように指導する。		・身近な現象を取り上げる、具体的場面を想起させることで見直しをもたせ、疑問や課題意識をもてるようにする。 ・実験結果を表やグラフにまとめさせ、そこから考えられることを考察として文章で表現させる。				・互いの歌声や副次的な旋律を伴奏を聴いて耳を合わせて歌う技能を身につけさせる。 ・音色や響きに気をつけて旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身につけさせる。		・多様な用具や材料を目的に合わせて工夫して扱うことができる。形の組み合わせ・色の濃淡・配置を効果的に活用できるような教材を使用する。		・グループ学習を積極的に取り入れ、裁縫や調理の仕方について、友達同士で協力しながら、互いに教え合う時間を設ける。		・学習カードやICTで記録を蓄積して、毎時間振り返りを記入することで、学習を通じた自分の心身の成長を確認させる。		・会話文を板書することやALTと教員でデモンストラーションを行うことで視覚、聴覚で理解できるようにする。		・ICTを活用して意見を共有することやグループで話し合う時間を設定することで様々な角度で考えることができるようにする。		